

新指定文化財紹介



前号、紹介のあった新指定文化財「上田日圓墓」の詳細について、紹介いたします。

- 名称 浄蓮寺所在「上田日圓墓」
 所在 東秩父村大字御堂 浄蓮寺境内松山城主上田氏墓地内
 概要 日圓の五輪塔は、火輪の下部が破損しているため、コンクリートで補修されている。ほかに破損部は無い。安山岩製。法量 全長101cm、地輪幅

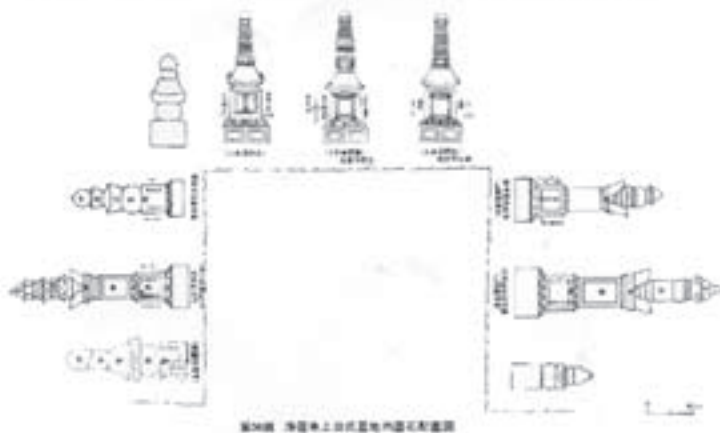


日圓五輪塔

〔銘文〕
 〔右〕 元和五年
 〔中央〕 經 願證院日圓
 〔左〕 未己八月廿一日

説明 日圓は、村指定文化財浄蓮寺蔵『慶長八年過去帳』によれば、上田案独、元和5年（1619）8月21日没とされます。案独斎を名乗る人物は、同過去帳よれば、5名存在し、それらは総て、松山城主系の人物であることが知られています。1代 案独斎政広（蓮好）、2代 案独斎朝直（宗調）、4代 案独斎・自芸斎（日上）、5代 案独（斎）（日圓）、6代 案独斎善次郎（日忠）となります。日圓だけ俗名を知られないが、その没年の関係から5代目と推定出来ます。3代目は朝直の養子となった事が推定される嫡流系の上田長則（運調）となり、長則だけ案独斎を使用していない。この五輪塔は銘文が明確に残されており、その記録と「過去帳」の記録が一致する日圓墓と確認出来ます。

松山城主3人の石製宝塔形墓は県指定文化財となっており、銘文から上田日圓と確認されるこの五輪塔は、松山城主系上田氏墓の一つとして貴重でありため、村指定文化財となりました。



浄蓮寺「上田氏墓」石塔配置図